

学校教育目標 やさしく、たくましい子どもの育成(やさしく、たくましく)

よく学ぶ よく遊ぶ 明るくあいさつ 黙って掃除

“子ども、保護者、地域、教職員、みんなが誇りに思い、楽しいと思える学校づくり”

〒801-0833 門司区清滝5-3-21 TEL 331-1708 FAX 331-1709 校長 三栗谷 進

子どもの健やかな成長のために！！



何年か前に、同じ内容を掲載しましたが、今回改めて『子どもの健やかな成長のために！！』と題して、日頃感じたり、考えたりしていることをお伝えします。

混沌とした日本社会や世界情勢の中で、子どもが健やかに成長してほしい、子どもの笑顔が広がってほしい、子どもの心が豊かになってほしい、そして、教育をもっともっと大切にしてほしいと心から願っています。

子どものことについて、保護者の皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

(1) 学級の荒れ、いじめ、不登校等について

現在、学校現場では様々な事案が起こっています。

“学級・学校の荒れ、いじめ、不登校、小1プロブレム、中1ギャップ、モンスターペアレント”…、どこかで何度か目にしたり、耳にしたりしたことがあると思います。

本校でも大なり小なり、問題事象は起こっています。

現在の子供達は、大人にはわからない、子どもなりの“ストレス”を感じていると言われてます。また、“規範意識”が低かったり“忍耐力”が弱かったりしているとも言われています。ですから、まったく悪気はないのに、仲間に入れなかったり、友達に冷たくしたり、靴を隠したり、落書きをしたりすることがあります。また、ちょっとしたことですぐに『キレて』、手が出ることもあります。後で話を聞いてみると、『これ』といった理由がないことや『かっとなら』などの答えが返ってきます。つまり、『何となく』、『自分の感情や都合だけ』で、友達との関係を考えていることがあるようです。学校現場では、大変に難しい問題ですが、厳しく、また、根気強く指導しています。



原因は色々言われています。学校の指導に対する厳しい批判は勿論、家庭や地域の『教育力低下』、『生活環境や生活習慣の変化・多様化』、個性という名目でまかり通る『わがまま』など、簡単には言えない複雑さを感じています。

事が起これば対処的に指導しなければなりません。それだけでは根本的な解決には至りません。予防的な発想や取組の方が大切なかもしれません。

本校では、『あいさつ運動』を中心に、『黙って掃除』『自分の命は自分で守る』『学習規律の定着』等に取り組んでいます。また、「いじめアンケート」を実施し、それをもとに「教育相談」を設定して、子ども理解や子ども同士の関係等について実態を把握したり、指導に生かしたりしています。直接的に学級の荒れ、いじめ、不登校等の指導へつながるものではありませんが、積み重ねることによって、子どもの心が豊かになり、必ず健やかな成長に結びつくものと捉えています。

来校者が必ず口にするのは、「子ども達がよくあいさつをしますね。」ということです。また、登校中や休み時間の様子を見てみると、上級生が下級生にやさしく接する姿も多く目にします。

やさしく、思いやりのある姿を見せる子ども達、そんな心を育てている教職員や家庭。子どものよいところを見逃さずに声をかける教職員。学校で取り組んでいることに深

い理解を示してくださる保護者の皆様。この環境では、学級・学校の荒れ、いじめ、不登校等につながらないと確信しています。

しかし、子どもは色々な姿を見せます。よい面ややさしい面だけではありません。そんな時には、厳しく指導しなければなりません。しかし、その全てが子どもの姿です。全てを受け止めた上で、『子どものよさを見取る』ことを根底にもっていれば、マイナス面だけでなく、必ずプラス面が見えてくるはず。どんな子どもも、『もっとよくなりたい』という思いをもっているからです。



(2) 保護者同士の話、情報交換、

学校・担任批判について

今まさに情報化時代。以前よりも『面と向かって話す』ことが減少してきました。現在、圧倒的に多くなってきたのが、携帯電話による情報交換、『メールのやりとり』です。小学生でも携帯電話をもち、メールやその他の機能を利用していると聞いています。実際に携帯電話を媒体とした事件も起こっています。携帯電話自体が悪いわけではありません。「いつでも、どこでも、誰とでも」連絡が取れるという大変便利なものですが、逆にその気軽さゆえの、情報過多状態はないでしょうか。また、情報に敏感になり過ぎたり、振り回されたりすることはないでしょうか。

情報といえば、『噂』は以前からよくあったことで、『井戸端会議』の中で情報交換し、広まっていったものでした。今は携帯電話で、瞬間に広がっていきます。

保護者の皆様が、一番興味・関心をもたれるのは、子どもや学級、学校のことではないでしょうか。私達、教職員は、保護者や地域の皆様に信頼していただけるよう、様々な取組を通して教育活動を実践しています。しかし、100%・120%を求められても、正直応えることはできません。また現在は、価値観が多様化しています。一人一人を大切にしていますが、全ての要望に応えることはできないのです。教育活動の主体者である学校の考え(文科省や教委の方向性も含めて)を、是非ご理解いただきたいと考えます。

学校に対して、不安や不満はあると思います。そんな時は、是非、担任や管理職等に相談してほしいのです。

子どもの前で担任や学校の批判をしたり、『メールのやりとり』をしたりして、悪い『噂』が広がっても、何の改善にもなりません。結果として、状況は悪化するばかりです。「人の噂も七十五日」、噂は長続きしないと言われてますが、どうでしょうか。『噂』からは、「人と人との温かな関係」を感じることはできません。

前述しました「学級・学校の荒れ、いじめ、不登校等」のきっかけに、このような『批判』『噂』もあると言われてます。担任や学校に相談して、全てが解決するとは限りませんし、学校の方針等をご理解いただくことの方が多いかもしれません。しかし、少しでも『共有』し『共通理解』

していこうとすることが、子どもの健やかな成長につながると考えます。本校は、保護者や地域の皆様のご意見に耳を傾け、改善できるところは改善していく姿勢があることをお伝えします。

門司海青小学校全ての子どもが、健やかに成長し、一人一人が未来に向かって羽ばたくためには、これからも学校と家庭、地域が手を携えながら『連携』を深めていくことが必要です。そのためのキーワードは、「受容・共感・理解」ではないでしょうか。

